

サドブルック中学校訪問第9団

令和5年11月5日～11日

報告書



真岡市立山前中学校



目次

- 1 訪問団名簿
- 2 行程表
- 3 訪問団長あいさつ
- 4 引率者雑感
- 5 姉妹校訪問紀行文
- 6 生徒の姉妹校訪問体験記
- 7 写真でたどる思い出

第9回 姉妹校訪問団員

	団員氏名	Family Name	First Name	gender		
	石川 昌由	Ishikawa	Masayoshi	M	校長	
	赤荻 さやか	Aoaogi	Sayaka	F	引率	
	添谷 幸栄	Soeya	Yukie	F	引率	
No.				gender	age	grade
1	石塚 寛弥	Ishitsuka	Hiroya	M	14	9th
2	沖杉 康平	Okisugi	Kohei	M	15	9th
3	加藤 詩菜	Kato	Shiina	F	15	9th
4	高崎 愛弓	Takasaki	Ayumi	F	14	9th
5	日下田 優一	Higeta	Yuichi	M	14	9th
6	細島 玖来藍	Hososhima	Kurara	F	15	9th
7	宮内 結愛	Miyauchi	Yua	F	15	9th
8	大岡 良子	Oooka	Ryoko	F	14	8th
9	塩野谷 紗希	Shionoya	Saki	F	14	8th
10	高崎 愛梨	Takasaki	Airi	F	14	8th
11	中野 結衣	Nakano	Yui	F	14	8th
12	村岡 真綺	Muraoka	Maki	F	14	8th
13	柳 璃子	Yanagi	Riko	F	14	8th
14	山崎 麻央	Yamazaki	Mao	F	14	8th
15	加藤 俊仁	Kato	Toshihito	M	12	7th
16	川村 龍聖	Kawamura	Ryusei	M	13	7th

Sister School

Sudbrook Magnet Middle School

4300 Bedford Road, Baltimore, MD 21208

Phone 443-809-6720 | Fax 443-809-6737



2023年 姉妹校訪問第9団 訪問日程

	期日	予 定	食 事	交 通	備 考
1 日 目	11月5日 (日)	出 発 式 (5:30) 山前中発 (5:40) 羽田空港着 (8:30) 羽田空港発 (10:55)	朝: 各自 昼: 機内	借上バス NH 102便	
		ワシントンDC着 (10:35) // 市内見学 (ワシントン記念塔他) ホテル着 (17:00)	昼: FC 夕: TO	借上バス	ホテル泊
2 日 目	11月6日 (月)	ホテル発 (9:00) ワシントンDC市内見学 ワシントンDC発 (13:30) ボルチモア・姉妹校着 (14:30) ホストファミリー対面・引き渡し	朝: 机内 昼: FC 夕: 家庭	借上バス HOST F	HOME STAY
3 日 目	11月7日 (火)	終日 授業参加	朝: 家庭 昼: CT 夕: 家庭	ス ク ー ル バス等	HOME STAY
4 日 目	11月8日 (水)	共同製作・授業参加 姉妹校発 (12:00) ニューヨーク着 (17:50) タイムズスクエア ホテル着 (18:00)	朝: 家庭 昼: CT 夕: MacD	ス ク ー ル バス等 借上バス	ホテル泊
5 日 目	11月9日 (木)	ニューヨーク見学 (8:00) グランドゼロ 自由の女神 メトロポリタン美術館 ロックフェラーセンター 他 ホテル着 (18:00)	朝: 各自 昼: FC 夕: レストラン	借上バス	ホテル泊
6 日 目	11月10日 (金)	ホテル発 (9:00) 車窓から町並み見学(国連本部他) JFK空港着 (10:30) JFK空港発 (13:05)	朝: 各自 昼~機内	借上バス NH 109便	機内泊
7 日 目	11月11日 (土)	羽田空港着 (17:40) 羽田空港発 (19:00) 山前中着 (21:30)	朝~機内	借上バス	自宅

" I'm home! "

真岡市立山前中学校 校長 石川昌由

11月5日より7日間、令和元年度以来の姉妹校訪問を実施することができた。本校の姉妹校はアメリカ合衆国メリーランド州ボルチモア市サドブルック・マグネット・ミドルスクールであり、今回の派遣団が第9団（生徒16名、引率3名）となる。私にとっては、校長として3年目に初めて姉妹校訪問団を派遣することができたわけだが、本校教諭時代にこの姉妹校締結に関わり、締結に先立った事前踏査も含めると今回が11年ぶり5回目の姉妹校訪問となった。私自身、海外の地で人生で一番多くの回数訪れた地であり、11年前の第3団訪問に際しては「これが最後」と名残惜しく米国を離れて来た。そして今回、ワシントン・ダレス空港着陸と同時に、タイトルにあるとおり、自然に「ただいま」という思いが胸を占有した。

今回の訪問を企画するにあたり、これまでなかった配慮事項が2点あった。それは、新型コロナウイルス感染症が感染症法の5類扱いとされたとはいえ収束したわけではないことと、世界的な物価高状況に加え円安が加速し海外への渡航費が高騰していることである。2点ともに、参加生徒はもちろんであるが、その保護者の立場を考慮すべきだと考え、従来の10日間の日程を7日間に短縮しての企画となった。

両校は2007年に姉妹校関係を締結してから、2頁後にあるような交流を進めてきた。永遠の姉妹校関係を続けていけるよう、原則、引率者のホームステイはなし、派手な歓送迎の式典等は行わないなど、互いの過度な負担を避ける配慮のもと、姉妹校交流は始まった。今回の訪問でも、両校の生徒の授業参加がメインであり、訪問団員は英語や日本語の授業のみならず、数学、体育、美術、音楽などあらゆる教科の授業に温かく受け入れられ、先生方にはアメリカの生徒と同じように対応していただけたことが本当に嬉しい。校内のどこを歩いても、私たち日本人を見かけると生徒たちも先生方も笑顔で声をかけてくれ、片言の日本語で話しかけてきたり、握手を求めて来たり、教室から廊下に出て手を振ってくれたり、下校のスクールバスの中から「ありがとう」と叫んでくれたりなど、式典等の型にはまった歓迎ではなく、普段の学校生活の中での自然でフランクな歓迎ぶりに感謝の気持ちがこみ上げてくる。自分自身5回目となった今回の訪問でも、姉妹校としての心温まる交流に素直に感動することができた。また、本校生が移動教室等で廊下を歩くとその周辺に姉妹校の生徒が集まり、集団になって動いている様子も珍しくなかった。全生徒そして全先生方、



ひいては学校全体をこんなにも私たちを歓迎するムードにしてくれた Webb 校長先生はじめ、外国語学部長の Lozada 先生、日本語授業を担当する Davis 先生には、感謝の念に堪えない。この3名様を日本に歓迎し、日本を、真岡を、山前中を堪能していただくことで、今までのそして今回のお礼をたっぷりさせていただく日がくることを信じ、これからも渡航以外の手段も工夫して交流活動を継続していきたいと考えている。日本からのフライト時間は約12時間、日本との時差は14時間という状況の中、姉妹校での交流活動をとおして、「ここに来てよかった」「ここが姉妹校でよかった」という実感と確信を得ることができ、「永遠に自慢の姉妹校」であることを再確認した。

また、アメリカ滞在中、ワシントン D.C.とニューヨークを訪問した。広大な敷地に広々と建物やモニュメントが建ち、草木の緑と人々が集える空間を作り、ゆったりとした時間の流れるワシントン D.C.。高層ビルが乱立し、東京都を越える人々が密集、走行する車の台数も多く常にクラクションと救急車のサイレン音が響く、夜も眠らないニューヨーク。何度訪れてもこの2都市のギャップが素晴らしい。それぞれがそれぞれの特徴や果たすべき役割をわきまえ、他を模倣せずに独自のカラーを維持し続けている。本校訪問団の第5団から8団までは、ボルチモ

アで姉妹校訪問後、再びワシントン D.C.に戻り日本に帰国していた。今回、第4団までのように最後はニューヨークを訪れて帰国するルートを採用した。姉妹校訪問の前後に、この性格が真逆の2都を体験できる生徒たちは何と恵まれていることだろう。ワシントンD.C.、ボルチモア、ニューヨークとアメリカ合衆国の3都を体験し、自分の現在や将来の生活にオーバーラップさせてさまざまなことに思いを巡らすことができるだろう。今後の訪問団にもボルチモアを含めたこれらの3都を回ることが太鼓判を押して推奨する。



第9団訪問団員16名の生徒は、体調不良や海外生活への不適応を起こす事態が一度もなく、全員が健康そのもので7日間の全日程をやり遂げることができた。姉妹校滞在中の授業参加や交流活動にも積極的に、ついつい日本人同士集まってしまう日本語を話している様子もほぼ見られなかった。滞在日数が短い中、朝から一日全ての授業に参加した日もあったが、慣れない言葉や環境に悪戦苦闘しながらも、頑張る様子が印象的だった。わずか数日間のお付き合いでも、別れの時には名残を惜しんでハグを交わしたり、目にはうっすら涙を浮かべるシーンも見られ、あと数日一緒にいさせてあげたいという本音が脳裏を横切った。今回姉妹校を発ち、ニューヨークに向かう際、次の本校からの姉妹校訪問は2025年であることを確認した。その訪問団は、記念すべき第10団としての派遣となる。今回のみならず今までの反省事項を振り返り、改善すべき点について検討し、「永遠に自慢の姉妹校」としての絆が一層強まる派遣となるよう準備したい。

また、姉妹校からの日本訪問団派遣についての調整も、順調に進んでいる。Webb 校長先生が校長就任時に、姉妹校関係の今までの経緯や現状をつかむために、お一人で来日し、真岡市や山前中学校を訪問された。また、ボルチモア市の教育委員会などにもこまめに足を運び、山前中への訪問団派遣について何度も交渉してくださっている。今回の訪問で彼の話をうかがい、サドブルック中学校からの訪問団が本校を訪れる日が、確実に近づいていることを確認できた。本校には過去に、姉妹校であるサドブルック中学校がなかなか来日できないでいることを指摘し、姉妹校関係を解消しようと動いた歴史がある。それは、姉妹校となる前に姉妹校探しをしている段階であればあり得ることだろう。だが、姉妹校関係締結後は、来日の実現に向けて障害となっている課題は何か、お手伝いできることはないかなどと、相手校の困り感に寄り添って課題解決に向かおうとするのがサドブルック中学校の姉妹校である山前中学校がとるべき態度である。相互の直接交流ができていないことを指摘し、交流の形式を整えることを最優先し、その実質を度外視するのは軽率すぎると考える。来日しないのなら姉妹校関係を破棄し、新しい姉妹校を探すと相手をいたぶるのではなく、どうしたら来日できるようになるだろうと手を差し伸べるのが大和魂ではないか。私自身、生徒を海外の学校に引率するのは、他校での経験を含めて今回が6回目である。その経験をとおして、前述しているように本校の姉妹校サドブルック中学校は、「永遠に自慢の姉妹校」とどこにいても、誰にでも、胸を張って、迷いなく、大声で言うことができる。こんな素晴らしい出会いに感謝し、永遠に大切にすべきである。山前中学校は幸せ者だ！

末筆ながら、本事業に対し、お力添えをいただいた真岡市当局および真岡市教育委員会、「永遠に自慢の姉妹校」であるサドブルック中学校職員・生徒・保護者の皆様、また本趣旨に賛同し参加申込みをしてくださった本校生徒・保護者の皆様、そして本校職員に心から感謝するとともに、これからも私たち2校が姉妹校として、何よりもお互いを RESPECT して、その関係性の向上に一層のご理解とご支援を賜れますことを衷心より祈念します。



山前中学校の姉妹校交流

本校の姉妹校であるサドブルック・マグネット・ミドルスクールは、アメリカ合衆国メリーランド州ボルチモア市にある公立学校。マグネットとは「専科」に近い意味であり、例えば小山工専における学科や、大学の学部にあたる。

サドブルック・マグネット・ミドルスクールにある学科は、演劇・芸術・外国語（日本語・スペイン語・フランス語）・地学／宇宙学系などがあ



◇これまでの生徒派遣交流

年 月 日	内 容
H18. 7. 10	サドブルック中から第1回訪問団が来校（引率ブーウィー先生、生徒10人）
18. 11. 7	サドブルック中へ姉妹校締結事前踏査 （古内校長、下和田教諭、石川教諭、市教委川上課長、PTA代表者）
19. 11. 9	第1回訪問団派遣（生徒22人） 姉妹校締結式典 （古内校長、下和田教諭、石川教諭、市教委篠崎指導主事、佐藤教育長、PTA代表）
20. 7. 10	サドブルック中から第2回訪問団が来校（引率ビッキー先生、生徒7人）
21. 11. 10	締結記念碑除幕（当時勤務の美術科田中教諭がデザイン）
22. 7. 13	第2回訪問団派遣中止（新型インフルエンザ流行のため）
22. 11. 10	サドブルック中から第3回訪問団が来校（引率モニカ先生、生徒7人）
23. 7. 12	第2回訪問団派遣（生徒22人、板橋校長、下和田教諭、石川教諭）
24. 11. 13	サドブルック中から第4回訪問団来校中止（東日本大震災のため）
25. 11. 13	第3回訪問団派遣（生徒20人、山本校長、西崎教諭、石川教諭）
26. 11. 13	第4回訪問団派遣（生徒18人、杉田校長、小口教諭、松本教諭）
27. 8. 2	第5回訪問団派遣（生徒12名、杉田校長、飯田教諭、関口教諭）
28. 11. 10	サドブルック中よりGordon Webb校長来校
29. 11. 9	第6回訪問団派遣（生徒20人、秋山校長、澤畑教諭、皆川教諭）
R 1. 11. 7	第7回訪問団派遣（生徒15人、秋山校長、皆川教諭、関口教諭）
5. 11. 5	第8回訪問団派遣（生徒10人、音頭校長、飯田教諭、近藤教諭）
	第9回訪問団派遣（生徒16人、石川校長、添谷教諭、赤荻教諭）

□その他の交流

- ・絵はがきを送る（京都や奈良、オリンピック選手を英語で解説する）
- ・ビデオメッセージを送る（学校行事や山前中の先生方を英語で紹介する）
- ・山前中の授業シーンを動画で紹介する
- ・日本らしい品物を贈る（工芸品・年中行事・おもちゃ・・・）
- ・互いの学校だよりを送り合う

□観光について

ワシントンD.C. 市内（ホワイトハウス・リンカーン記念堂・ワシントン記念塔・スミソニアン博物館群・国会議事堂など）
ボルチモア市内（ホストファミリーの案内で）
ニューヨーク市内（自由の女神・メトロポリタン美術館・グランドセントラル・タイムズスクエア・セントラルパークなど）

第9団姉妹校訪問団とともに

山前中学校 教諭 添谷 幸栄

まさに世界の中心と言えるアメリカの首都ワシントン D.C.。2日間の滞在中に目にしたものの全てが、今までテレビや書籍など各種メディアで何度となく目にしたことがあるものであり、自分の人生の中で、一度は直接目にするチャンスがあるだろうかと思っていたものばかりでした。そのどれもが歴史的な深い意味を含めた偉大なもので、アメリカ人にとってだけでなく世界中の人々にとって、今後大切に守っていくべきものであることを実感しました。



わくわくする気持ちを抑えながら、長いフライトを経て到着したワシントン・ダレス国際空港。私たち第9団訪問団員は、そこで現地ガイドの上田さんとの出会い、多くの体験と学びに満ちた2日間のワシントン観光にすることができました。

アーリントン国立墓地やペンタゴンを車窓から眺めた後に到着したのが、リンカン記念堂。そこから見えるワシントン記念塔。英語教科書 NEW CROWN 3 で長きにわたり扱われている題材です。渡米前の学習会では、ちょうど60年前にこの場所で行われたマーティン・ルーサー・キング・ジュニアのスピーチの動画を目にした団員たちは、実際にこの場所に立ったことで、あのスピーチがまさに現代につながっていることを実感したと思います。また、この建物の屋根部分に書かれている州名の順番の意味や、リンカンの石像の背後に記されたゲティスバーグ演説の文面について、現地ガイドの上田さんの問いかけに、団員たちが社会の授業などで学んできたことを口にしたたり、説明を受けて大きくうなずいたりする姿を目にし、団員たちが、単なる観光ではなく、自分たちがここに来た意味を心に刻もうとしているという強い意志が感じられました。

ワシントン滞在2日目には、国会議事堂やホワイトハウスという、まさに世界の政治の中心となる場所に足を運び、言葉では表すことができない不思議な緊張感を抱きました。

さらに、国立航空宇宙博物館本館では、ライト兄弟が最初に操縦した動力飛行機の実物や、月面着陸に成功したアポロ11号の司令船が展示されていて、飛行機が大好きな私自身の心を浮き立たせました。それと同時に多くの土産品に書かれていた”FAILURE IS NOT AN OPTION”（失敗という選択肢はない）というフレーズに心を奪われました。打ち上げ失敗となったアポロ13号に搭乗した乗組員を必ず地球に帰還させるという強い気持ちを表した言葉であり、「何か悪いことが起こったとき、冷静にすべての選択肢を考え、解決策を見つけることをあきらめない」というこの言葉を、学校や日常生活の中で常に胸にしていこうとすることで、これからの人生が変わっていくのではないかと思います。生徒たちにも、ぜひ伝えていきたい言葉が1つ増えました。

これまでに数回、他校での海外派遣事業での引率経験はあったものの、締結した姉妹校を訪問したことや、アメリカ合衆国の本土に渡った事は初めてのことで、英語科教員としての大きな経験をさせていただいたことに感謝申し上げます。第9団姉妹校訪問団を引率させていただき、来年度以降、サドブルック・マグネット・ミドルスクールとの姉妹校事業がさらに発展し、団員とバディの永きに渡る交流だけでなく、学校同士がもっと近く感じるものになることを心から願っています。

今回の訪問に至るまで多くのドラマがあった。そのドラマも私にとってはかなり思い出深いものであるが、やはりサドブルック中での2日間に一番思い入れがある。それは3つの学びがあったからだ。

(1) 人との出会い

訪問に至るまでサドブルック中学校のデイビス先生とどんな訪問にしていくかの計画を進めた。全において初めてであった私に対しても、デイビス先生は今までの経験を生かして、しっかりと導いてくれた。もちろん、日本では5度目の訪問になる校長先生、そしてベテランの添谷先生のアドバイスもあった。そんな恵まれた環境の中で、迷うことなく姉妹校交流の計画を立てることができた。

サドブルック中では多くの先生方の授業を見学させてもらった。山中の生徒だけではなく、教員である私達も温かく迎えてくださった先生方に感謝しかない。そのような中で、やはり人との出会いの面白さや嬉しさを改めて感じる事ができた。また、生徒達もバディやその家族、そしてバディの友人達との出会いを通じて、異なる環境の中で生きる大変さや面白さに気付けたのではないだろうか。支え、支えられながら生きていくという人生の基盤をしっかりと築けたことと思う。

(2) 生徒の成長

短い時間ではあったが、英語だけの時間を過ごした生徒達は少しだけ自信を付けたように感じる。彼らの感想の中には、訪問をしたことで自分の英語力をさらに高めようと決意したという一文も見られ、実際にその文化に触れ、人との関わりが彼らの向上心が刺激された結果だと思う。このような貴重な機会を提供してくださっている真岡市には心からお礼を申し上げたい。また、アメリカという地で成長する姿を見せてくれた生徒達の力を学校生活の中でも伸ばしていきたい。

(3) 改めて考える寛容さ

島国で海に囲まれた日本には「空気を読む」、「謙虚さが強調される」など独自の空気が流れている。しかし、自由の国アメリカ。サドブルック中に通っている生徒は、髪型やファッションなど自らの個性を発揮している姿が多く見られた。それは生徒だけではなく、教員もそうであった。日本と異なり教員は1つの教室を与えられているため、生徒達が教室を移動する。その教室1つにしても、その担当教員の個性が表現されているのである。スペイン語のクラスでは、メキシコの伝統行事である死者の日に飾られる色とりどりのガーランドやその他スペイン語を使う国に関するもので装飾がなされ、色鮮やかな教室にわくわくする気持ちが止まらなかった。画一性や「協調」を良しとする日本とは大きく異なる光景だった。昭和から、平成そして令和と時代の移り変わりとともに価値観のあり方も変わってきたのではないだろうか。今一度、私自身の生き方を振り返ってみたいと思った。

黄色い通学バス、廊下にあるロッカー、授業後一斉に廊下に出てくる生徒達、カフェテリアで盛り上げる生徒達。そこには私が画面の中で観ていた映画の世界が広がっていた。しかし、そこに出てくるのは有名な俳優ではなく、山前中学校の生徒、そして私であった。今後もこの物語が続くように努力をしていきたいと思う。



①出発式

3年 高崎 愛弓

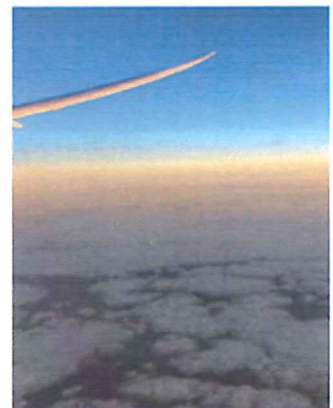
心配と期待が入り交じる中、私達姉妹校訪問団は先生方と家族に向けて、「行ってきます。」というあいさつをしました。待ちに待ったアメリカへの訪問。未熟な私たちを先生方や家族、友人が応援してくれました。出発式は朝早く行われました。前日は緊張で眠れず、不安で胸が押しつぶされそうになりましたが、先生方の言葉、友の存在のお陰で自分自身の前進への意欲が湧きました。団員のほとんどは海外に行ったことがありません。何もわからない土地で一週間も過ごすことは、中学生にとって大変なことだと思います。しかしこのメンバーとならきっと大丈夫だ、と出発式でのみんなの表情を見て思いました。それに加えて私達には、添谷先生、赤荻先生そして校長先生という頼もしい味方も付いています。そのため、不安以上に安心して「行ってきます。」という挨拶ができました。



②羽田ーワシントン（機内）

1年 加藤 俊仁

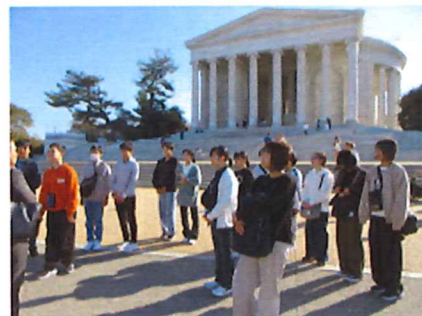
これから紹介するのは、11月5日の羽田からワシントンまでの機内の様子です。僕たちは、NH102便に乗りました。僕にとっては人生初めての飛行機だったのでとても緊張した反面、ワクワクしました。離陸する時は、ゆっくり進んでからいきなり速度が上がったのでドキッとしました。高度が上がっていくごとに東京の町並みが小さく見えました。窓からは雲の上を見ることができ、とてもきれいでした。機内の席は隣に石塚寛弥さんと日下田優一さんがいたのでとても安心しました。機内には小さいパネルがあり、そこで自由にテレビなどを見ることができました。特にイッテQが面白かったです。飛行機に乗ってから3,4時間経つと外が少しずつ暗くなり始めました。その時に、一回目の機内食が出ました。最初の機内食は魚のフライと、干瓢巻きなどが出ました。どれもとても美味しかったです。その後夜になり、日付変更線をまたいで一日戻ったはずでしたが、外が暗かったので全く実感がわかりませんでした。夜の間はなかなか寝付けず、テレビや音楽を聞いてました。そして朝になると二回目の機内食が出ました。今回の機内食は、ナスなどが入ったグラタンが出ました。機内食を食べながら外の景色を眺めていると北アメリカ大陸の五大湖が見えました。機内食を食べ終えしばらくするとアメリカ合衆国の上空になりました。そこを通ったとき町並みを見てみると、畑が大きかったり、野球場が4つ1か所にまとまっていたりと日本とは全く違う景色でした。土地の大きさから見ても日本とアメリカでは、文化や歴史が大きく違うことが感じられました。ワシントンにある空港に着陸する時は少しずつ下がっていき、その後いきなり下がったのでびっくりしましたが、離陸のときにも同じようなことがあったのでそこまでドキッともしませんでした。そして無事に12時間のフライトを終えることができました。



③ワシントン D. C. 見学 I (リンカン記念堂、トマス・ジェファソン記念堂)

3年 宮内 結愛

私たちは、一日目に、ワシントン D.C.にある「リンカン記念堂」と「トマス・ジェファソン記念堂」を訪れました。リンカン記念堂では、椅子に座るリンカンの像や、リンカンが亡くなった当時のアメリカの州の数である 36 本の柱などを実際に見ることができました。「人民の、人民による、人民のための政治」で有名なアメリカ合衆国第 16 代大統領のリンカン。彼がアメリカにとってどれほど偉大な存在なのかを学ぶことができました。トマス・ジェファソン記念堂では、ジェファソンの銅像や壁一面に書かれたアメリカ独立宣言などが見られました。第 3 代大統領として有名なトマス・ジェファソンですが、実はアメリカ独立宣言の起草者でもあります。



私たちはこの 2 カ所を訪れて、アメリカの偉人について新たな知識を得ることができました。教科書でしか見たことのなかった場所を実際に目で見て、アメリカの歴史について理解を深められました。

④ワシントン D. C. 見学 II

(マーティン・ルーサー・キング・ジュニア記念碑、スミソニアン博物館群)

3年 石塚 寛弥

11 月 5 日の午後、私たちはマーティン・ルーサー・キング・ジュニア記念碑を訪れました。そこには、「I have a dream.」のスピーチをしたことで有名なキング牧師の石像が建てられていました。このエリアの入口には「絶望の山」と呼ばれる 2 つに切られた石があり、その間を抜けると、キング牧師の言葉が刻まれた「希望の石」があります。また、キング牧師の像が見つめる先には、トマス・ジェファソン記念堂があり、彼の独立宣言に言及したからとも言われています。このよく考えられた配置に驚き、彼の生き様が表れていると感じました。ただ、この石像には、少し面白い点もあります。それは、像を彫った彫刻家がアジア人だったため、キング牧師の顔が若干、アジア人風になってしまっていることです。

その後、私たちはスミソニアン自然史博物館に行きました。そこには、海洋生物から宝石まで、一億を超える様々なものが展示されています。中でも私が注目したのは、動物の展示方法です。足を開いて水を飲んでいる姿や、狩る姿・狩られた姿、さらには恐竜の尻尾の骨が通路まで飛び出しているなど、それぞれの動物たちの、今にも動き出しそうな生き生きとした展示方法に、目を奪われました。また、スミソニアン自然史博物館には、持ち主を不幸にする「ホープダイヤモンド」というものがありました。別名は「呪いのダイヤモンド」です。しかし、その恐ろしい名前とは裏腹に、光輝きながら回転するその姿は、美しく、うっとりしてしまうような、そんな感じがしました。



⑤ワシントンD. C. 見学 III (国会議事堂・ホワイトハウス)

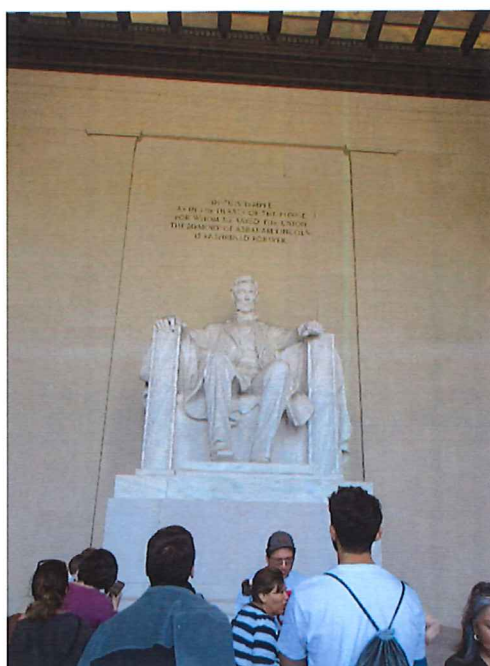
3年 細島 玖来藍

私は、2カ所とも行ってみたい場所だったので実際に目にして改めて感じたことがたくさんありました。

国会議事堂は、ワシントンD.Cにある、高さ88mのドーム型の建物です。最初に使用されたのは1800年の通常会期でした。ドームの上には、「フリーダム」という女神像が置かれています。写真だけでは分かりづらいですが、実際に見ると思っていたより大きくて驚きました。ここで行われる大統領就任式の際には、正面に壇上と大階段が設置されます。また、独立記念日の祝賀会やナショナル・メモリアルデー・コンサートなどが開催されます。このように、会議だけでなく色々なことに使われています。静かで穏やかな場所にあり、自然を身近に感じられました。

ホワイトハウスは通称、「ホワイトハウス・コンプレックス」といい、4つの建物と庭からなっています。その中でも、エグゼクティブ・レジデンスという建物は大統領とその家族が暮らす公邸であるほか、首脳会談や条例の調印式、重要な記者会見などが行われています。また、ホワイトハウスは一度焼き討ちにあい、焼け残った外壁を使って再建して、焦げた外壁を隠すために白く塗装したことから「ホワイトハウス」と呼ばれるようになったと言われています。名前の通り白くて、魅了されました。一番楽しみにしていたところだったのでとても印象に残っています。

決して簡単に行ける場所ではないので、今回行けたことはとても良い経験だったと思います。建物周辺の町並みや風景を感じることもできました。ここで感じたことを忘れず、これからの学習に活かしていきたいです。



⑥ワシントン D. C. 見学 IV (航空宇宙博物館)

3年 加藤 詩菜

この博物館は、ワシントンにあるスミソニアン博物館の中でも一番人気の場所です。大きな博物館でした。テレビや教科書でしか見たことのないような、飛行機や宇宙にまつわるものがたくさんありました。私が特に印象に残ったのは、昔の飛行機の様子を体験できるコーナーです。まずは昔の飛行機の内部を再現しているところに入りました。当時の飛行機の内部は乗れる人数が少なく狭かったのですが、今の飛行機よりも飾り付けが豪華だと思いました。次に昔の飛行機の揺れを体験できるところに行きました。とてもガタガタ揺れてすごかったです。私は今回のアメリカ訪問が初めて飛行機に乗る機会だったのですが、飛行機が揺れたときは怖いと感じました。今の飛行機でさえ揺れると怖いと感じたのに昔、当時の飛行機に乗っていた人々はドキドキしながら乗っていたのかなと思いました。飛行機の進化を知ることができました。

お土産に宇宙ペンや宇宙食を買いました。宇宙食を食べてみましたが、まあまあな美味しさでした。カロリーの塊みたいな感じでした。そして思ったよりも重さが軽く、やっぱり宇宙に持っていかから、効率よく栄養が取れることと重さが軽いことが大事なんだなあと思いました。スミソニアン博物館では有名なお土産らしく、買ったのでいい記念になりました。

貴重な展示物をたくさん見る事ができて、私自身もすごく楽しむことができました。実物を見ることはもう二度とないかもしれないので、ここで見たものを大切な思い出として覚えておきたいです。



⑦サドブルック中学校での授業 (日本語)

2年 高崎 愛梨

私はサドブルック中学校で、日本語の授業を受けました。国語の授業では、サド中の生徒と一緒に、配られたテーマに沿って日本語で話しました。最初は少し緊張してしまいましたが、サド中のみんなはとても優しく、とても楽しく会話することができました。そして、とても日本語がうまいので、びっくりしましたがスムーズに話すことができました。また、授業の最後には日本の文化に触れるために、ラジオ体操をサド中の生徒と一緒に行いました。私達にとって、普通のラジオ体操でしたが、サド中の生徒さんたちは面白そうにやっていたので、とても驚きました。

私は日本語以外に印象に残った授業があります。それは、理科の授業です。グループ活動で授業が進んでいきましたが、私が一緒に活動していた人たちはとても優しく、翻訳をしてくれたり、明るく話をしてくれました。とても親切にしてくれて、とても印象的でした。また、授業中ではグループ活動中の話し声がたくさん聞こえてきて、発言しやすい雰囲気だと思いました。山中でも積極的に会話をし、授業中の発言がしやすい雰囲気を作りたいと思いました。



⑧サドブルック中学校での授業（体育）

2年 柳 璃子

体育の授業に参加して印象的だったことは、「服装」と「自由さ」です。サドブルック中学校では、日本のように決められた体操着は無く、普段着のまま授業を受けていました。これは、私のバディも同じように感じたようで、私が体操着に着替えたことに驚いていました。体操着でなくても、特に不都合ではなさそうでした。

授業の前半は、クラス全員で体力テストのようなものと、ゲーム感覚で行う簡単な運動を行いました。後半は、6、7人のグループに分かれ、それぞれが選択した運動を自由に行うスタイルでした。私たちのグループは、ダンスや縄跳び、ランニング、ボール投げなどをやりました。自由にダンスの振り付けを考えて練習し、完成したら先生に見ていただく、自分たちでルールを決めて縄跳びやボール投げをするなど、やることを生徒が自分で選択し、自分の意志で動く習慣がついているのだなと感じました。今まで踊ったことのないような振り付けでしたが、グループの子たちが優しく教えてくれ、楽しくダンスをすることができました。

日本での体育のようなきびきびとした感じは無く、自由で和気あいあいとした体育でした。



⑨サドブルック中学校での授業（ストリングス）

2年 大岡 良子

ストリングスとは弦楽器の授業のことです。日本の中学校には馴染みのない授業だったので、どのようなことをする授業なのかとても楽しみでした。授業では生徒がヴァイオリン、ビオラ、チェロのいずれかの楽器を演奏していました。バディはビオラを演奏し、私は隣の席に座り授業を見学していました。日本の音楽の授業で弦楽器に触れることはありますが、なにか一つだけの楽器を専攻してやることに驚きを隠せませんでした。私とバディで受けたストリングスの授業は年齢が異なる生徒で構成されていて日本との違いを感じました。授業を担当した先生はとてもフレンドリーで優しい先生でした。私に楽器の経験があるかなどいろいろ聞いてくれたのですがすぐクラスに馴染むことができました。先生の教え方はとにかく褒めることでした。基礎練習を始める前に先生が自分の耳ですべての楽器の音を調整するところを見て個人で音を調整する私の所属する吹奏楽部との違いを感じ、弦楽器は調整するところが多いため難しいのかと思いました。

合奏を始める前の基礎練習では吹奏楽部と同じようなことをやっていて少し驚きました。合奏していた曲は聞き覚えがあり、聴いていて楽しかったです。また、授業の途中でトイレに行く生徒がいました。その人達は先生から紙になにか書いてもらってから教室の外に出ていました。少し大変そうに思いましたが、日本の学校にはない仕組みだったので非常に興味深いものでした。

姉妹校訪問では日本と異なる刺激を受け、とても良い経験になりました。



⑩サドブルック中学校での授業（ダンス）

2年 塩野谷 紗希

サド中では自分の好きな授業を選んで参加する方式で、私のバディの授業にはバレエなどの山前中にはない授業もあり楽しそうでした。また、バレエ専用の教室があり、広がったです。私はみんながやっているところを見学していましたが、とても本格的で驚きました。その時は、発表会の練習のようなことをしていて、楽しそうでした。テレビで見たことのある動きが多く、みんなで並んで踊り、動画を見返して、また踊り、たくさん練習していました。見ているのが楽しかったです。

また、山前中学校にもある、歴史や保健などもありました。そのほとんどがタブレットやプリントを中心に授業をしていて、教科書もなく荷物が少ないです。授業で発言するときには、ほとんどの人が手を上げていたり、発言に対して先生も褒めてくれたりと、とても発言しやすい雰囲気でした。

保健の授業では、タブレットでクイズを出し、ゲーム形式で復習をしていました。個人で誰が早く正確に答えているか勝負しながら勉強していて、楽しそうでした。また、コーラスの授業にも参加しました。コーラスでは、最初に昨日やったことを話す雑談タイムがありました。先生も楽しそうに聞いていました。授業ではドレミファソラシドのハンドサインをしながら、ゆっくり歌っていました。ハンドサインも知らなかったのですが、隣の子が優しく教えてくれました。

移動教室のときには、みんなが手を振ってくれて嬉しかったです。日本語で挨拶をしてくれる人もいました。



⑪サドブルック中学校での授業（日本文化の交流会）

2年 山崎 麻央

姉妹校訪問の最終日は山前中生とそれぞれのバディが集まって交流会をしました。交流会ではオーナメント作りや日本の文化である習字や折り紙などをしました。習字ではバディが私の名前を漢字で書いてくれました。折り紙では、自分の得意な折り方をバディに教えました。なかには、私たち山前中生よりも上手に折っている人もいて驚きました。日本らしい文化をアメリカにも伝えて、共に共有できて嬉しかったです。オーナメント作りでは、作り方がよくわからず苦戦しましたが、同じテーブルの人同士で助け合い、いい作品が作れました。楽しい時間はあっという間に過ぎ、交流会が終わると、もうすぐサド中の皆と会えなくなるんだな、と思い悲しくなりました。サド中をバスで出発するときに仲良くしてくれたバディたちがお見送りをしてくれて嬉しかったです。

アメリカの良さ、日本の良さに改めて気付かせてくれる姉妹校訪問になりました。そして、初めて会った人とでも交流会を通してこんなにも仲良くなれるんだ、と思い感動しました。



⑫ニューヨーク見学 I (タイムズスクエア)

3年 沖杉 康平

私達は、11月8日にニューヨークにあるタイムズスクエアに行ってきました。まずタイムズスクエアとは、世界で最も有名とも言われる交差点です。大都市とは聞いていましたが、想像を遥かに超え人が多く、建物が大きく高かったです。人が多いため迷子にならないか心配でしたが、山前ジャージが目立っていたので迷子になることはありませんでした。現地は人が密集しているので信号無視をする人がほとんどでした。しかも電動スクーターで移動している人も多いのでいつ危険な目に遭うかわからないので少しハラハラしていました。お土産屋に行くときもちょっとした広場を使いバク転、ダンスなどをしたり、ゴミ箱を使ってドラムを演奏したりしているので流石ニューヨークだなと思いました。バク転する人の周りには、手拍子や、歓声などがありアメリカならではの雰囲気を感じました。タイムズスクエアで記念写真を撮っているとデッドプールの服装をした人がカメラに映り込み、その後はグータッチをしてサヨナラしました。



記念写真を撮った背景には、大きなスクリーンがあり感激しました。アメリカは日本のように地震などが無いので高い建物がたくさんあることを実感しました。それとアメリカの信号の色が白だったり、赤い手で止まれという意味の信号もありました。私はこれらの経験を活かし、これからの英語の勉強に励んでいきたいです。

⑬ニューヨーク見学 II (9.11メモリアル記念館)

3年 日下田 優一

私達は、5日目に9・11メモリアルミュージアムに行きました。9・11メモリアルミュージアムとは、皆さんご存知アメリカ同時多発テロ事件の公式追悼施設として、テロ事件の標的となったワールドトレードセンターが倒壊した跡地に建てられた施設です。入館した瞬間から、そこはもう世界が違いました。空気が重く、寒さが体の奥に直接響いて、驚くほどの雰囲気の高さに、私は恐怖さえ感じたのを覚えています。館内には、さまざまなものが展示されていました。当時の様子を表す写真や映像、現場にあった鉄骨や消防車など。なんの変哲もない日常から一瞬で地獄に変わる様子。確かにあったその現実、ドラマなんかとは違う本当の人の死の重さを感じました。ガイドの方はこうおっしゃっていました。「自分たちの象徴であるワールドトレードセンターが倒壊したこの事件は、当時のアメリカ人にとってとてもショッキングな出来事だった。」
「象徴の崩壊」なんて聞いても想像は難しいですが、これこそがこの事件の本質であり、犠牲者の数や被害の規模とは違う何かを表していると思います。メモリアルミュージアムで私は9・11事件を体験したと言ったらそれは過言になります。私の体験は、あくまで疑似です。しかし、この体験を真剣に受け止め、じっくり消化することで、1つの貴重な経験になると思っています。そしてそれを周りに広めて、身近な悲劇の1つでも減らせるよう、頑張りたいと思います。

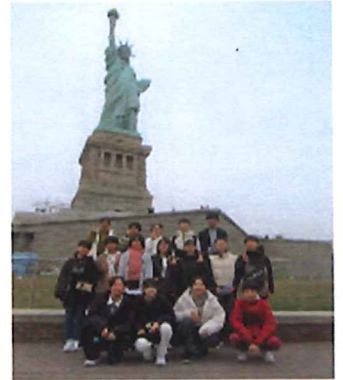


⑭ニューヨーク見学 III (自由の女神)

2年 中野 結衣

9.11 メモリアルミュージアムの次に、アメリカのシンボルでもある自由の女神があるリバティ島へフェリーに乗って向かいました。誰もが名前を聞いただけでも思い浮かべる事ができるほど有名な自由の女神像を実際に間近で見たときは、今でも鮮明に思い出されるほど感動しました。正面からの姿はテレビなどでも見たことがありましたが、後ろ姿は現地ならではの光景でした。ガイドさんによると、アメリカの独立 100 周年を祝うため自由の女神像がフランスからアメリカに運ばれたときは 200 個以上のパーツに分解されて運ばれたそうです。また、下からは見る事ができませんが、女神像の足元には鎖が繋がれており、これは奴隷制度からの開放と人類の平等を表しているそうです。まさに自由の国アメリカの象徴としてふさわしい姿でした。

渡米する前から楽しみにしていた自由の女神を間近で見る事ができて、忘れられない思い出となりました。みなさんもぜひ自分の目で見に行ってみてください。



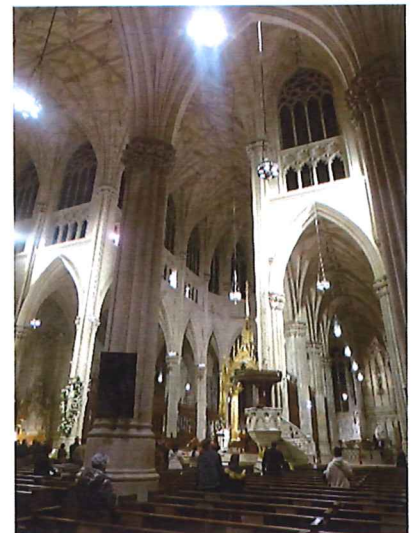
⑮ニューヨーク見学 IV (メトロポリタン美術館・聖パトリック大聖堂)

2年 村岡 真綺

メトロポリタン美術館では、有名な絵画、工芸品、彫刻などの様々なものが展示されていました。また、展示されているものの時代や地域、文明の幅がとても広くて、色々な時代の彫刻などを見ることができました。遺跡や彫刻がとても大きくてびっくりしたし、エジプトの神殿のまわりには水がありとても綺麗だったので印象に残っています。それから、歴史で勉強したものも実際に見ることができたので勉強になりました。絵画は、バッハやモネ、ゴッホ、ピカソなどの世界的に有名な画家の絵がたくさんの場所に展示されていました。施設がとても広く、建物の中がおしゃれで日本では見られないようなすごく大きな美術館でした。また、2 階もあり見るところが尽きないぐらいたくさんの展示品がありました。

このような大規模な美術館を見るのは初めてだったのでとても衝撃を受けたし、普段このような絵画や彫刻、工芸品などを見ることがあまりないのでいい経験になりました。

聖パトリック大聖堂では、たくさんの人がお祈りを捧げていました。建物もとても大きく、中の装飾もとても綺麗でステンドグラスの絵がとても綺麗でした。所々にキャンドルがありとても明るくて神聖な雰囲気包まれていました。日本では味わえないような雰囲気とても新鮮でした。



帰りの空港で僕とても複雑な気持ちだった。日本に帰って、いつも通りの家、学校、友達と会えるのは、楽しみだったけど、サド中での友達、その家族、バディの家にはもう会えないと思うと、もう少しこの旅を続けたい気もした。荷物検査では、バディとの思い出とその家族との時間を思い出しながら荷物を出していた。その時、「またバディに会いたい。」や、「あの家に戻りたい。」などの叶いもしないことを考えていた。でも、「自分の家族に会えなくなる時間が長くなるのは更に寂しいな。」と矛盾している気分だった。でも、もう変えられない事実だから、しょうがないときっぱりと諦めた。飛行機の出発までは、搭乗口近くのショップや、コンビニ？的な所を回って、最後のお土産買いをしたり、軽食を摂ったりした。どこを見てもやっぱり難しい英語がたくさん並んでいるなと思った。この頃には、最初は英語でお店の店員さんに話しかけることすら、怖くてびくびくしていたのが、店員さんに話しかけることを当たり前のようにできるようになった。まあ、言っていることが全くわからないときはちょっとビビってしまうが。その後、「アメリカ」の搭乗口に指紋をつけてから飛行機へ乗った。

飛行機内では、映画を見たり、バラエティーを見たりして、楽しく過ごすことができたから、気が楽になった。また、家では映画を見ても最高でも2つぐらいだから、飛行機内で3つも4つも映画を見ることができるのは、とっても Happy だった。

飛行機内での食事は、僕の好きなものがたくさん出ていて、ラッキーだった。また、飛行機内の食事のメニューは毎回同じで飽きてしまうと思っていたが、毎回異なり、一回一回が楽しみだった。それでいて美味しく、機内食はとても Good だった。日本に着くとなんとも言えない懐かしい気持ちが湧いてきた。周りに書いてある文字は日本語だったのになぜか不自然だった。まだアメリカで楽しんでいる気分だったのだろう。



でも、僕は好きだな。日本のほうが。

I Love Japan !



鮮やかな3日間

2023年11月5日(日)～11日(土)



真岡市立山前中学校 3年1組 石塚 寛弥

<バディとの出会い>

11月6日、長い間待ち望んでいたサドブルック中学校への訪問が実現しました。私はものすごい量の喜びと緊張感で胸がいっぱいでした。バスを降りると、サド中の教員の方が「こんにちは皆さん！ようこそ！」と日本語で歓迎してくださり、嬉しくなりました。その後の対面式で、バディのRenardと会いました。彼は13歳で、ドレッドヘアが特徴的な明るい生徒でした。母親のElisaにもご挨拶し、いよいよ私の人生初ホームステイが始まりました！その日の夜に、私は扇子やエコバッグなど、日本から持ってきたお土産を紹介し渡しました。特に好評だったのは折り鶴で、折り方を教えて一緒に折りました。



<学校へ行こう！>

Elisaはマイペースな性格でした。サド中は通常8:30登校なのですが、車の時計は既に8:28でした。私が“Can you get there in time?(間に合ういそう?)”と聞くと、Elisaはすました顔で、“No problem.”と答えたので、驚きました。当然、学校到着は時間ギリギリでした。

私はアメリカの学校の構造と、授業風景に興味があったので、しっかり観察しました。サド中の場合、入口のドアを開けると、すぐ階段に繋がっていました。また、廊下が中央にあり、その両側に各教室があるという感じでした。少々複雑な構造だったため、何回か迷子になってしまいました。授業は85分間で、生徒たちは5分間の休み時間を利用し、次の教科の教室へと移動します。大勢の生徒が一斉に移動するので、廊下は非常に混雑します。授業中は日本と同じく、電子黒板を使用します。ただ、生徒たちがノートをとることはほとんどなく、よくプリントを使っています。また、先生が何か質問をすると、多くの生徒が手を挙げて答えます。日本とはまた違う生徒たちの積極性にも驚かされました。

<お昼ごはん>

サド中では、2時間目が終わると、たくさんの生徒がカフェテリア(食堂みたいな場所)に押し寄せます。広めの丸テーブルに8人ほど腰掛けて、各々食事をしたり、談笑したりします。とてもにぎやかな雰囲気です。私は朝に、Elisaから受け取った筒状のポテトチップスを食べました。Renardの友人とも挨拶をして仲良くなりました。

<放課後>

2日目の放課後は、ボーリング場に連れて行ってもらいました。アメリカのボーリング場は広く、常に陽気な音楽が大音量で流れていました。大きなピザを3人で分けながら、大いに盛り上がりました。帰り際、Elisaは“I'll give you a present!(プレゼントあげるわ!)”と言ってアメリカの可愛いおもちゃをくれました。私はその日、まるで本物の家族のような温かさや愛情を感じました。とても嬉しかったです。

<まとめ>

今回のアメリカでのホームステイは、私にとって衝撃の連続で、鮮やかな3日間でした。アメリカと日本の文化の違いを再確認したり、新たな事実を学んだりすることができました。また機会があればアメリカを訪れて、RenardとElisaに会いに行きたいです。



姉妹校交流での思い出

2023年11月5日(日)～11日(土)



真岡市立山前中学校 3年1組 沖杉 康平



私は、姉妹校訪問での7日間は、とても充実した日々を送ることができました。

1日目は、初めてのことや12時間のフライトでとてもつかれましたが、ロングフライトが終わると、ついにアメリカの地に足を踏み入れました。アメリカについたときは、匂い、髪型、雰囲気などなど日本や日本人と異なる点がたくさんありました。僕はその匂いが少し気になりましたが、それより楽しみが勝っていました。その後はワシントンD.C.でアメリカ初の食事をしました。私が食べたのは、ピザです。アメリカのピザは思っていた以上にでかく、とてもこってりしていました。

次の日になると、とうとう待ちに待ったホストファミリーと対面です。とても緊張しているなか、ホストファミリーは明るく接してくれました。その後、車に乗り家に向かいました。家に向かう途中で、車は右側通行、同じような家がたくさんある、車を道路に駐車しているなど、日本と異なる点がたくさんありました。家につくと、庭に大きなトランポリンがあったので遊び、ホストファザーがラーメンを作ってくれました。ラーメンはなかなかの味でしたが、その後の夕飯は日本というカレーのようなものが出てきて、異国の味を知ることができて少し感動しました。食事の後は、日本からのお土産のけん玉をプレゼントしました。そしたら、とても喜んで遊んでくれて、私も嬉しかったです。4日目の朝、ホストファミリーとお別れをして、午前中学校の授業を受けたら、バディともお別れです。BYE BYE。



とうとう次はNY! NYの建物は、どこを見渡しても高く、人がたくさん、その上信号無視をする人が多く、流石自由の国だと思いました。夕食はマックでダブルチーズバーガーを食べました。日本のマックとは、ピクルスの大きさが少し大きいくらいであまり変わらなかったです。5日目はNY市内観光、まずは自由の女神が立つリバティー島にフェリーで行きました。フェリーに乗っているときはとても気持ちよく、景色が最高でした。5日目の夕食にはステーキとポテトを食べました。味は文句無しで美味しかったです。最終日は、空港で軽くお土産を買ったら、飛行機に乗りアメリカを離れました。自分としては、悔いの残らない一週間だったと思います。



まとめ：アメリカ合衆国は、日本とは雰囲気や規模が全然違う。しかし、交通などのルールをしっかりと守る日本人に改めて尊敬をした。 Thank you.



アメリカの姉妹校訪問

2023年11月5日(日)～11日(土)



真岡市立山前中学校 3年2組 加藤 詩菜

私は今回初めて海外に行きました。アメリカという国で、そして姉妹校でたくさんのことを学び、経験することができました。

アメリカ合衆国に到着して2日目にホストファミリーと対面し、ホームステイが始まりました。私のバディの名前はジェイドといいます。私は最初からすごく緊張していましたが、ホストファミリーが私を家族のように受け入れてくれたので、嬉しく感じたと同時に安心しました。ジェイドの家には鯉がいました。家の中に入ると、部屋の中に木が立っていて、木の根元に人工池がありました。鯉は日本でも愛されている魚なので、日本を好きでいてくれるのかなと思い嬉しかったです。そうした思いとは裏腹に、ホームステイの最初の夜はホストファミリーにあまり積極的に話しかける事ができませんでした。ベットに入って、「ああ、明日はうまくできるかな…」と不安に思ってしまいました。頼れるのは自分だけだなという思いに至り、心を落ち着かせ、頭の中を整理して、「明日はやってやろう」と強い気持ちをもつことができました。

ホームステイ2日目は姉妹校に行く日です。朝起きたのは6時45分でした。サドブルック中では、ほとんどの授業でタブレットを活用していました。そして、生徒は髪を染めていたり、ブレスレットを付けていたりする子もいれば、授業中にガムを噛んでいる生徒もいました。私は、そこに文化の違いを大きく感じました。授業中はそれぞれの生徒がしっかり自分の意見を発言していました。質問があるときには進んで手を上げて質問をしていました。それに影響されて、私も日常生活で、今までよりも自分の意見を発言できるようになったかなと思います。学校のカフェテリアでは、いろいろな子が話しかけてくれました。日本の学校や生活、その他たくさんのことを話すことができ、楽しかったです。

家に帰ると私はジェイドと一緒に、日本で何回も練習したお団子作りをしました。英語で作り方を説明しながら頑張りました。無事、美味しいお団子が完成し、ホストファミリーにも喜んでもらえたので、良かったです。そして、夜ご飯も一緒に作りました。体長40cmくらいのアメリカンサイズの鮭をオーブンに入れて焼きました。料理を一緒に作ったことで、より一層仲が深まりました。

日本に帰り家族にアメリカでの思い出などを話していると、母から「強くなって帰ってきたね。」と言われました。精神面で成長することができたと思えます。今回の訪問で私は、いい刺激を受けました。これからも強くなれた自分に自信をもって日々頑張っていきたいです。





アメリカの思い出

2023年11月5日(日)～11日(土)



真岡市立山前中学校 3年2組 高崎 愛弓

ワシントンD.C.では、リンカン記念堂やスミソニアン国立自然史博物館などアメリカの政治や歴史に関する施設に行きました。もともと日本で事前予習を行っていたお陰で、建物の細かい装飾や造りに注目して見学できました。特に私が好きな建物は国会議事堂です。巨大なドーム型に一番、目を引かれました。街の様子は、思ったよりかなりのどかで緑が多かった印象です。

2日目は、いよいよ姉妹校へ訪問の日となりました。日本で練習してきた英語での自己紹介をし、その後は各自バディの家に行きました。土足で家の中に入るのはなかなかの抵抗がありました。ホストファミリーのMartin家はクリスチャンだったので、夕食の前に「食前の祈り」があり、私も初めてお祈りをしました。最後に「アーメン」と言いました。日本ではできない体験で新鮮でした。夕食を食べ終わった後は、家族で絵を使ったゲームをしました。ここでは、英語力だけでなく画力も必要だったので、一番難しかったです。私にとって初のホームステイで分からないことしかなかったけど、優しい家族で安心しました。

3日目では、ついに姉妹校のサドブルック中で授業を受けました。行きのスクールバスでは、姉妹校の生徒たちは、元気でかなりにぎやかでした。近くの席に座っていた子たちが飴やガムをくれました。それに、髪型や制服を褒めてくれて嬉しかったです。授業は一限85分間でした。私にとってはとても長い上、早口の英語に頭が追いつきませんでした。しかし、日本との授業スタイルの違いを多く見つけることができました。例えば、授業中にお菓子を食べている生徒がいたり、ほとんどタブレットを使った授業など、すてきな体験に心を踊らせた。



4日目は、ホストファミリーとお別れして、ニューヨークに向けて出発しました。1限目に、姉妹校でサド中の生徒と一緒にパーティーをしました。日本の折り紙を教えたり、書道をやったりしました！その後、お昼を食べた後にお別れをしました。バスに乗り込む前にバディのSelahが泣いてしまい、別れるのがとても心苦しくなりました。最後にハグができて良かったです。

ニューヨークでは、メトロポリタン美術館や9.11メモリアルミュージアムをはじめとする多くの観光地に行きました。とても楽しみにしていた自由の女神は、かなりの迫力で圧倒されました。タイムズスクエアなど中心部に行くと、めまいがするほど大都会でした。その上、どこでもずっとたばこの匂いがしていました。ガイドをしてくれた佐伯さんという方のお話がとても面白くて、バスの中で笑いあったのはいい思い出です。

私は、アメリカに行くのにあたって、多くの人とのコミュニケーションをとることを目標としていました。実際は、いざ話そうとしても言い方が分からなかったりして辛かったです。これを踏まえて、次海外に行くときは、自分の気持ちが伝えられるように、より一層英語の勉強に励んでいきたいと思います。そしてこの経験を活かせるような人生を送ってみたいです。



アメリカでの体験

2023年11月5日(日)～11日(土)



真岡市立山前中学校 3年2組 日下田 優一

ずっと知っていた、未知の国アメリカでの日々はとても素晴らしいものでした。

アメリカの空気に慣れないまま到着してしまった姉妹校サドブルック中。不安を胸にホストファミリーと対面しました。優しくそんな人たちで、緊張が一瞬で引いていったのを覚えています。対面式が済んだ後は、早速ホームステイ先へ。ウェルカムバルーンを作って出迎えてくれた温かさを感じながらも、おかえり緊張、すぐに鳴り出した心臓の鼓動をおさえながらホストファミリーの車に乗り込みました。家に荷物を置いて、向かう先は私のバディであるマクスウェルのバスケットボールの練習。そして練習が終わった後、行ったのがスーパーや百貨店ででした。百貨店ではホストマザーにシーツなどの私に必要なものを買っていただきましたが、「他にあなたに必要なものはありますか?」と聞かれ、そもそも何が揃っているのかも知らない私は、「特にありません」と答えたところ、掛け布団もなかったようで夜は布団無しで寝ました。しかし、寒さは感じなかったので、本当にアメリカの家の防寒はすごいです。学校では、ずっとマクスウェルについて行きながら授業に参加しました。日本と違う85分間の授業と5分間の休み時間というサイクルは正直かなり辛かったです。しかし、生徒がたまに私とお喋りしてくれることもあって、楽しい時間もありました。その時できた友達がくれたブレスレットは、自分への一番のお土産です。



あっという間にお別れの日。学校では交流会のようなものを行いました。見慣れたもの、初めて見たもの、さまざまなものが出てきて楽しかったです。筆ペンのときは、お絵かきが得意なマクスウェルが半紙にいろいろな絵を描いていましたが、その中に混じっていたのが「NARUTO」の絵。実はマクスウェルは「NARUTO」が好きらしく、本当に日本の漫画は海外まで広まっているということを実感しました。いよいよ正真正銘最後のお別れ。本当にみんな親切で、最初から最後まで良くしてもらいました。姉妹校訪問が良い思い出になったのはみんなのおかげです。ニューヨークへ向かう僕たちのバスの見送りにいたのはマクスウェルですが、彼を含めたみんなに向けて、感謝を込めて手を振りました。

サド中での思い出を振り返りながら到着したのはニューヨーク。ホテルに荷物を置いてからニューヨークの町並みを歩きました。辺りはとてもキラキラしていて、自分とはあまりにかけ離れた雰囲気圧迫されました。観光で特に印象に残ったのは自由の女神像です。写真や映像などで見慣れたものではありませんが、実際に見るとすごい迫力でした。また、女神像は右足の踵を上げていることが一番の驚きでした。

私のこの訪問での目的は、英会話能力を鍛えることでした。それを振り返ると評価はあまり高くありません。何度も翻訳アプリに助けしてもらいましたが、今回が良い体験になったのは確かです。これを無駄にしないためにも精進を止めず、また、周りにも広めていきたいです。





バディと過ごした時間

2023年11月5日(日)～11日(土)



真岡市立山前中学校 3年2組 細島 玖来藍

私は、今回が人生初のホームステイでした。最初は全く想像がつかず、不安なことも多くありました。でも、メールで訪問前からまめに連絡を取り合い、少しずつ相手のことがわかってきました。そして迎えた対面の日、私はとてもドキドキしていました。バディのMaryandrelは、とても可愛らしく、優しい子でした。いよいよホームステイの始まりです。まず、車でホームステイ先に行きました。とてもきれいな家でした。私の部屋を用意してくれていて、テレビもあり、ピアノもあり、ベッドも大きくて居心地が良かったです。

1日目の夕食は、ハンバーガーを食べに行きました。やはり、本場のハンバーガーはとてもボリュームがあって美味しかったです。家に帰り、その日はとても疲れていたのですぐに寝ました。2日目は姉妹校に登校する日でした。朝食は、軽めの食べ物を少し食べるだけでした。そして、スクールバスに乗りました。アメリカのスクールバスは日本と違って生徒の会話でと



ても騒がしく、バス内で音楽も流れています。私は、とても緊張していましたが生徒さんたちが「おはようございます。」や「こんにちは。」と挨拶をしてくれたり、手を振ってくれたりして嬉しかったです。学校に着いて、1時間目は社会の授業でした。サドブルック中の授業中、生徒によっては音楽を聞いていたり、話していたり、遊んでいたりと、人それぞれです。授業時間が85分間とても長いですが、それを感じないくらい楽しかったです。サドブルッ

ク中は休み時間が5分しかないので、みんな大急ぎで次の教室に移動します。いろんな教室があって迷子になりそうでした。お昼になるとみんなでカフェテリアに行って昼食をとります。そこはものすごく賑やかでアメリカを感じました。1日学校に行っただけでも、たくさんの友達ができました。生徒、先生に関わらずたくさんの人が声をかけてくれました。みんな優しくて気さくな人たちばかりでした。2日目、学校が終わると、ホストファミリーがオリオールパークに連れて行ってくれました。球場には入れなかったけど、ショップなどを見ました。その後、ステーキを食べに行きました。とてもおいしかったです。家に帰ってから、日本から持ってきたお土産やお菓子を渡しました。喜んでくれて良かったです。3日目は、ホームステイ最終日でした。学校に行って、1時間目はバディの子と一緒に日本の遊びとアメリカの遊びをしました。アメリカの文化を知るよい機会になりました。バディとお別れするのはとても悲しかったです。

私は今回のホームステイで学んだことがあります。それは、言葉が理解できなくても、ジェスチャーなどでコミュニケーションが取れることです。私自身、理解できないこともたくさんありましたが、ジェスチャーを使って言いたいことを表現したら相手に伝わりました。

姉妹校訪問で学んだことをこれからの日々の生活に活かしたいです。このような貴重な体験をさせてくれた両親、先生方に感謝したいです。



Memories Of America

2023年11月5日(日)～11日(土)



真岡市立山前中学校 3年1組 宮内 結愛

私にとって、アメリカで過ごした1週間はとても貴重な時間になりました。初めての海外を楽しむと同時に、アメリカでしか学べないさまざまなことを学びました。

今回の派遣のメインである姉妹校「サドブルック・マグネット・ミドルスクール」のあるボルチモア市では、2日目～4日目の約3日間、ホストファミリーと一緒に過ごしました。ホストファミリーはとても優しく、緊張と人見知りでなかなか話せなかった私を温かく迎え入れてくれて嬉しかったです。私は、自分から質問をしたり、自分のことについて紹介したりと、積極的に話しました。慣れない英語だけの会話は大変でしたが、通じたときはやりがいを感じました。

ホームステイ1日目の夕食はピザでした。なぜなら、「好きな食べ物何?」と聞かれたときに、私が「Pizza!」と答えたからです。やはり、日本よりもビッグサイズで、私は一切れしか食べられませんでした。いつかピザ1枚食べられるようになりたいです。また、その日の夜に、私は日本から持ってきたお土産を渡しました。日本で大人気のガチャガチャや、一人ひとりに日本の人気キャラクターの商品などをあげました。とても喜んでもらえて、ホストマザーからはハグをしてもらいました。まさかハグしてもらえると思ってなかったので、驚きました。アメリカでの日常を感じられた体験の一つでもありました。



2日目は、姉妹校での授業にバディのShaayと一緒に参加しました。理科やアメリカの歴史、数学や日本語など、たくさんの授業を受けました。慣れない英語だけの授業は内容が全く分らなかったけど、先生の質問にたくさんの生徒が手を上げて答えているのが新鮮でした。私は、この様子に刺激を受けたので、日本では授業で積極的に発表していこうと思いました。

ホームステイ最終日はボルチモアの中心街に行きました。私が「I want to eat crab!」と言ったら「Let's go!」と言われ、車に乗ってお出かけしました。私がどうしても食べたかったカニは、とても大きく甲羅を取るのに苦労しました。すると、ホストマザーが親切にすべてむいてくれました。ありがたくださいいたカニは絶品でした! また、帰りにお土産屋さんにも行きました。ホストマザーが私にスノードームやマグカップ、チョコレートや猫じゃらしまで、家族にもたくさんのお土産を買ってくれました。一生の宝物です!

私は、ホストファミリーとお別れする日の朝、手紙を渡してから学校に行きました。恥ずかしいので後で読んでくださいと言ったのに、ホストファザーはもらってすぐに読み始めました。とても恥ずかしかったけど、お礼ができて良かったです。



私は、アメリカに1週間滞在して、物事を少しポジティブに捉えられるようになった気がします。また、今回の派遣を希望した理由の1つでもあった人見知りを克服するということも達成できたように思います。私は、日本と他国との文化の違いを感じることに興味があります。そのため、将来は海外で働くことが夢です。そんな私にとって、今回の経験は間違いなく貴重であり、夢に近づく第一歩となったことでしょう。このような機会を設けてくださった先生方、両親、ホストファミリーの皆さんに改めて感謝したいです。

この1週間は、私にとってかけがいのない時間です!



アメリカ

2023年11月5日(日)～11日(土)



真岡市立山前中学校 2年1組 大岡 良子

私は今回、日本との違いに触れたり、自分と同じ年頃の人の生活を知りたくてアメリカにある姉妹校訪問に参加しました。サドブルック中学校でホストファミリーと対面したときはとても緊張しました。早く打ち解けたかった私は、まず音楽が好きか質問してみました。すると「うちの家族は全員音楽が好きだよ。」と答えてくれ共通の話題がで少し安心しました。車に乗って、まずスーパーに行きました。広さは日本と変わらないくらいでした。お寿司売り場があり覗いてみるとカリフォルニアロールがたくさんありました。よく見ると日本では考えられないような具がたくさんあり、とても興味深いものでした。その後、コストコに行き、大きなピザとアイスクリームを食べました。私はこれが夕食だと思ったのですが、「おやつだから残してもいいよ。」と言われ日本との間食の量の差が大きいと感じ、大変驚きました。家に着くと他のホストファミリーが出迎えてくれました。家には音楽がかかっており、音楽が好きというのがよくわかりました。バディのChanningと一緒にミートパスタを作りました。チーズの塊を全て使ったり、日本の何十倍もある大ソーセージが一般的な物だと知り、日本とアメリカの食文化の違いを感じました。その後ホストファミリーとマシュマロを焼きながら日本について話したり、私の家族について話したりしました。ホストファミリーの犬2匹とも触れ合いました。おおらかで面白いホストファミリーの人柄のお陰ですっかり私の緊張もほぐれました。私は日本からのお土産のお煎餅、苺のお菓子、白い恋人、お箸をプレゼントしました。大変喜んでくれました。すると、バディが私にプレゼントをくれました。中には可愛いリストバンドとハンドクリームや、石鹸が入っていました。



2日目の姉妹校の生活では驚いたことがたくさんありました。まず授業中の生徒の様子です。席はほぼ自由で、授業中はお菓子をつまんだり、おしゃべりをしたりと自由に授業を受けていると感じました。バディに聞くと、「基本的に静かにしなければならぬが、先生が怒るまで誰も気にしない。それに加え勉強がしっかりできていないと次の学年に進めないで、自己責任だからこそ自由なのかもしれない。」と教えてくれました。日本との教育制度の違いを実感しました。授業後帰宅したら、バディと一緒に公園に行ってバスケットボールをしました。その後トランポリンパークという施設に行き、トランポリンなどのアトラクションで遊びました。アメリカでは一般的な施設と聞きましたが、日本では見たことがない施設だったため、とても新鮮でした。とても広く、楽しめる空間だったので日本にもあったらいいなと思いました。その後ハンバーガー屋さんとお菓子を買いにスーパーへ行きました。ハンバーガー屋さんは日本にはないお店で、とても美味しかったです。やはり飲み物はとても多く、それだけお腹いっぱいになりそうでした。スーパーではさまざまな種類のお菓子が売ってました。その日はバディと映画を見る予定だったので、日本では見たことも聞いたこともないお菓子を色々買って帰りました。映画はもちろん英語で見ました。正直全部の意味は分らなかったのですが面白かったです。翌朝は、マックで朝食をとり、その後フルーツとオレオヨーグルトを食べました。オレオヨーグルトはやはり日本では見たことがなく、最初は食べ方すらわかりませんでした。味はとても美味しく感じました。学校では、バディとその友達と過ごしました。廊下を歩くと沢山の生徒から声をかけられ、写真撮影をしたり、握手やハグをしたりしました。ここでもアメリカ人の陽気さに、日本人との性格の違いを感じ、不思議な気持ちでいっぱいでした。昼食はバディとその友達と一緒に7人で食べました。姉妹校では生徒数が多いため時間を分けて食事をすると思いました。メニューは米のようなものと肉でした。この肉が「てりやきチキンだよ。日本にもあるだろ。」と言われ非常に驚きました。私の知ってるてりやきチキンとは姿や味ともに似ても似つかず、驚きが隠せなかったです。食事中、隣の席の子がお菓子をくれました。真っ赤な見た目で辛いのかなと思いつつ食べると想像の2倍辛かったです。平然と食べている皆を見て自分がおかしいのかと思ったほどでした。その後は、とうとうバディの子とお別れでした。2日という短い時間でしたがアメリカの学校を体験し、アメリカの文化も知ることができたことが自分にとって一番の収穫になりました。

アメリカの観光で一番私の記憶にあるのは、自由の女神を見たことです。正直大きくて迫力があるだけだと思っていましたが、ガイドさんが自由の女神に関する歴史やエピソードを説明してくださったおかげで興味がわき、本物への期待が高まりました。実際に見ると自由の女神は、想像を超える迫力があり、写真を撮ろうとしても大きすぎて大変でした。次に楽しかったのは、リンカン記念堂です。これもその大きさに驚きました。ガイドさんによるとリンカーンさんを横から見ると髪の毛があるはずのところは人の顔に見えると教えてくれました。半信半疑で覗いてみると案の定、人の顔があるようで、とても面白く感じました。リンカンさんの像の横にはあの有名な演説の内容が壁一面に書かれていて、少々感動しました。ホワイトハウスに行ったことも記憶に残っています。大きくて白い建物はとても綺麗でした。ホワイトハウスの見学中に、アメリカの大統領選挙の結果を発表する場所を見ました。アメリカの大統領選挙は、選挙で勝ったほうがドアから出ていくという発表の仕方なのだそうです。日本ではなかなか無いユニークなものだと感じました。

私はアメリカで文化の違いを肌で感じる事ができ、収穫の多い姉妹校訪問になりました。



アメリカでの思い出

2023年11月5日(日)～11日(土)

真岡市立山前中学校 2年2組 塩野谷 紗希



私が今回の姉妹校訪問に応募した理由は2つあります。まず、私の母も中学生時代に真岡東中学校の姉妹校訪問でアメリカに行っていたからです。姉妹校訪問団員募集のプリントをもらったとき、母に話すと、その当時の話をしてくれました。話を聞いているうちにどんどん興味が湧いて行きたいと思いました。次に、私は小学5年生の時から英語塾に通い、言語だけでなく文化の違いにも興味を持ち、自分で違いを見つけたいと思ったからです。また、私は英検を毎年受けていて、その成果をアメリカで試したいという思いと、アメリカで学んだことを英検の受験に活かしたいと思ったからです。そして無事、自分が訪問団員となることができとても嬉しかったです。

派遣が決まってから約4か月、ずっと楽しみにしていたアメリカでの時間は、とても充実していましたが、あっという間に終わってしまいました。

初めてホストマザーに会ったときは、笑顔でハグをしてくれて、優しい印象でした。バディのAngelとは、訪問前にたくさんメールのやり取りをしていて、会うのをとても楽しみにしていました。初日の夜には、バディとバディのお兄さん、お姉さんとその彼氏の5人でショッピングモールに行きました。日本のキャラクターの商品がたくさんあり、アメリカでも有名だと知り、驚きました。ホストファミリーの家に帰ってきてからは、次の日は学校の授業に出るので緊張していました。

朝学校に行くと、姉妹校の生徒がみんな私に挨拶してくれて驚いたし、嬉しかったです。日本語で「おはようございます。」や「こんにちわ。」と言ってくれました。姉妹校は85分間の授業なので長いなと感じました。ほとんどがタブレットを使った授業でした。教科書を使っている授業はあまり見かけなかったです。タブレットかプリントの授業で登下校の荷物が少なく日本とは違う授業のやり方でした。また、授業中生徒みんなが発言していて、先生も生徒が発言しているときうなずいて「グッド」と指で表していたり、発言に対して「イエス!」などと言ってくれたりして発言しやすい雰囲気だなと思いました。

私が受けた授業の中で、私は特にコーラスの授業が楽しかったです。コーラスの授業では、最初に週末何をしたのか話していました。みんな話を聞きながら、相槌を打っていて楽しそうでした。私もアメリカの生徒が話していることを自分で理解できたので嬉しかったです。歌うときもみんなで歌っているのが感じられて、楽しかったです。また、ドレミファソラシドのハンドサインがあり、隣の子が優しく教えてくれました。

アメリカの学校では、日本とは違い、クラスという概念がありませんでした。生徒は自分のやりたい教科選び、そのサイクルで生活していました。自分の教室がないので、授業のたびに教室を移動していました。姉妹校は校舎の敷地もとても広くて迷ってしまいそうでした。廊下にはスロープもあって車椅子でも移動しやすいなと感じました。

また、私達日本人は制服を着ていたこともあり、たくさんの生徒が手を振ってくれました。校内ですれ違ったら誰でも手を振ってくれるという日常がいいなと思いました。





最高の旅

2023年11月5日(日)～11日(土)



真岡市立山前中学校 2年2組 高崎 愛梨

私は初めての海外で、とても大切な人々に出会えたと思います。

私達は、11月6日に初めてホストファミリーと対面しました。ホストファミリーと対面する前は、どんな人かななど心配しかありませんでした。私のバディはアディソンという子でした。初めて彼女の家についたときに、おばあちゃんや、おばさん、更にはいとこまで呼んで歓迎してくれ、とても嬉しかったです。アディソンはとても優しく、お家では私の緊張が解けるように、一緒にビデオゲームなどをして遊んでくれました。

そして、ホストマザーが私に「何を食べたい？」と聞いてくれたので、私は「ピザを食べたいです。」と答えると、夕食に私達はピザを食べに行くことになりました。

アメリカのピザ屋さんに着くと、ピザ屋さんの隣に「公文」があり、アメリカにも公文があるのだなととても驚きました。そして、ピザを頼み、楽しみに待っていると、日本では見ないぐらいの大きさのピザが出てきて、とても驚きました。私とホストファミリーはピザを2枚頼みましたが、食べきれず、結局は持ち帰りをしました。ピザ以外にも、スイーツを頼み、食べました。とても美味しく、驚きました。また食べたいと思います。

サドブルック中学校での授業初日は、とても緊張しました。また、学校に行く手段がスクールバスで、私にとって初めてのスクールバスでしたのでますます緊張しました。朝のバスの中は、少し静かな感じでした。帰りのバスの中では、姉妹校の生徒がみんなお話をしていてすごくにぎやかでした。隣の席に座っていた子が、ブレスレットをくれてとても嬉しかったです。学校に着いたときに驚いたのは、生徒の人数です。山前中学校よりも人数が多く、廊下で生徒さんと目があったり、すれ違うと、毎回「HI!!!」と優しく声をかけてくれてとても嬉しい気持ちになりました。

山前中学校と違うところはたくさんありましたが、その中で2つ紹介したいと思います。

1つ目は、授業のことです。日本でいうクラスがなく、その教科の先生の教室に毎時間移動しなければなりません。廊下に人がいっぱいいて、迷子になりそうでした。ほとんどの教室では、テーブルがグループの形になっており、グループ活動が多かったイメージがあります。そして、授業中は先生が静かにと注意するくらい、ほとんどの人が発言していて、とても活発で、私も日本で積極的に発言したいと思いました。

2つ目は、お昼ご飯についてです。昼食は3時間目の途中に30分間の昼食時間があり、その間に食べました。私はホストマザーに「お弁当か学校のご飯かどっちがいい？」と聞かれ、学校のご飯がとても気になっていたもので、学校のご飯を選びました。何種類かある野菜の中の一つを選び、サイドメニューも2種類の中から選びました。とても美味しかったです。

人生初めてのアメリカで、アメリカの授業に参加をしたり、有名な観光地に行くことができ、とても充実した一週間となりました。





アメリカでの1週間

2023年11月5日(日)～11日(土)



真岡市立山前中学校 2年1組 中野 結衣

私はアメリカでの7日間で様々なことを学び、感じることができました。

約12時間の空の旅を楽しみ、ワシントンD.C.に到着しました。アメリカ本土での初めての食事は、現地のお店で自分の力で昼食を注文しました。緊張しましたが、現地の方に英語で自分の意志を伝えることができ嬉しかったです。



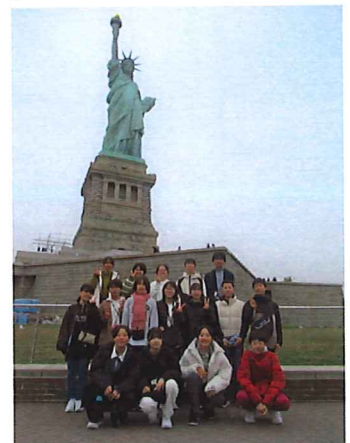
2日目に、いよいよサドブルック中学校へと出発しました。到着すると、サド中の生徒はフレンドリーに手を振ってくれて私たちを歓迎してくれました。そして、ついにホストファミリーとの対面がありました。私は不安でいっぱいでしたが、私のバディであるSanaは優しく声をかけてくれて、安心してホームステイに臨むことができました。

ホストファミリーの自宅に到着すると、日本の家との違いに驚きました。家中に敷かれたカーペット、とても大きな冷蔵庫など初めての光景ばかりでした。日常会話では、自分から話しかけることと自分の意思をしっかりと伝えることを心がけました。夕食にはハンバーガー屋さん連れて行ってくれました。アメリカンサイズで驚きましたが、美味しかったです。その後、日本からのお土産を渡しました。お菓子や文房具などをあげましたが、1番気に入ってくれたのは、けん玉でした。遊び方を説明すると、ずっと遊んでいました。面白いと言ってくれてとても嬉しかったです。その後、アメリカ発祥であるUNOで時間を忘れるほど遊びました。日本とアメリカの遊びで仲を深める事ができ、お互いの文化を理解することの大切さを知りました。翌日、スクールバスを利用し学校へ向かいました。バスの中は沢山の人で溢れていて、とても賑やかで良かったです。学校に入ると、すれ違う人全員に挨拶され、少し戸惑いながらも挨拶することができました。授業が始まると、生徒全員が挙手して自分から発表しようとしていました。また、自由な雰囲気楽しそうに授業を受けていました。生徒は授業が終わると、次に行われる授業の教室へと移動します。お昼はカフェテリアで食べました。メニューはナゲットやヨーグルトでした。日本とはまた違う味付けでおいしかったです。

3日目には図書室でパーティーをしました。折り紙をしたり、習字をしたりして楽しみました。ホストファミリーと別れるときにはすっかりアメリカになじみ、別れが悲しかったです。学んだたくさんすることを忘れないようにしたいと思います。

5日目には自由の女神を見に行きました。昔から生で見たいと思っていたので、感動しました。移動で使ったフェリーは風が気持ちよく、景色も綺麗でした。

私は、アメリカでの1週間を通して、たくさんの知識や経験を得たり、文化の違いを学ぶことができました。この貴重な経験をこれからの生活に活かしていきたいです。





思い出の7日間 in アメリカ

2023年11月5日(日)～11日(土)



真岡市立山前中学校 2年2組 村岡 真綺

私のアメリカでの7日間はとても充実した、思い出になるものになりました。

アメリカに到着した日は、リンカン記念堂などを観光しました。次の日はワシントンD.C.市内を観光したあとに、姉妹校サドブルック中学校に到着してホストファミリーと対面しました。最初はとても緊張して、私からあまり話しかけられませんでした。バディのカホリが、

「一緒に夜ご飯を作ろう」と言ってくれて、そのおかげで、ホストファミリーともたくさん話すことができ、仲良くなることができました。夜ご飯を食べ終わったあとは、日本から持って行ったお土産を渡しました。畳のコースターや日本のお菓子、真岡木綿のポーチをあげました。特に畳のコースターをあげたら「触り心地がとてもいい。」と言って、とても喜んでくれました。

次の日は、サドブルック中学校で授業に参加しました。朝、教室に入ってびっくりしたのは、学校で朝ごはんを食べていたり、朝からお菓子を食べている人がいて予想以上に自由だったことです。授業中は、シーンと静かになることがなくて、みんな手をあげて発表していました。また、とても発表しやすい雰囲気での授業で、とても楽しかったです。授業の途中に急にお昼を食べに行くのもとてもびっくりしました。3時間目の時間はその他の時間より30分長く設定されていて、その時間でお昼を食べるシステムのようなものでした。カフェテリアもとても広かったです。私が座ったテーブルにまだ話したことのない子が座っていたりしてとても緊張しましたが、相手のほうから話しかけてくれて、だんだんと仲良くなりました。その子たちから、お菓子をもらったり、一緒に写真を撮ったりしました。みんなとてもフレンドリーで楽しかったです。一日の授業が終わると、ホストファミリーと一緒にショッピングモールに行きました。一緒にたくさんのお店を見てまわったり、カホリが好きなアニメやお菓子を紹介してくれました。また、ホストマザーがカホリのおすすめのお菓子を私にプレゼントしてくれてとても嬉しかったです。その後に、ハンバーガーのお店に夜ご飯を食べに行きました。そこでは、カホリのおばあちゃんとホストマザーの妹さんに会いました。ハンバーガーはとても美味しかったし、大人数で話しながら食べるのはとても楽しかったです。

姉妹校での最後の日は、みんなで折り紙や習字など日本の文化をバディと一緒にやりました。カホリが「2日間楽しかったよ」と言ってくれて嬉しかったです。

この7日間を通して、今まで習った英語をいかしてなるべく自分から話すことを意識して生活することができました。これからも、自分が言いたいことを英語で相手に伝えて会話ができるようになるためにしっかり勉強していきたいです。





姉妹校訪問

2023年11月5日(日)～11日(土)



真岡市立山前中学校 2年1組 柳 璃子

生きた英語に触れ、その経験を英語の学習や将来につなげていきたいと思い、私は姉妹校訪問への参加を志望しました。そんな私にとって、アメリカでの日々はとても充実した時間でした。ホストファミリーと会う直前までは楽しみな気持ちと緊張が入り混じっていましたが、対面セレモニーでバディのMameとホストマザーが笑顔で迎えてくれ、安心することができました。

姉妹校では、スペイン語や歴史、弦楽器、理科、体育などの授業を受けました。1コマ85分間という長さに驚きましたが、実際に始まると興味深く楽しい内容だったので、あっという間に授業は進んでいったように思います。特に印象的だったことは、アメリカは「参加型」の授業であるということです。与えられたテーマに対し生徒が意見を出し、みんなで考えて意見交換しているような授業スタイルでした。自由に質問や意見を言える環境だなと思いましたが、私は、この授業スタイルに圧倒されてしまいました。最終日には、パーティーをしてもらいました。楽しい時間を過ごしましたが、それと同時にバディやサドブルック中学校の生徒たちと間もなく別れなくてはならないと思い、寂しい気持ちにもなりました。生徒も先生方もとても優しく気さくに接してくれたので、楽しく有意義な時間を過ごすことができました。

ホストファミリーの家では、一緒に折り紙をしたり、真岡の夏祭りや山前中学校の運動会、りんどう祭のことなどを話したりしました。バディが真岡や山前中学校のことに興味をもってきて嬉しかったです。一緒に夕飯の買い物にも行きました。2日間ともアメリカの有名な店の料理をテイクアウトできて美味しかったのですが、アメリカの家庭料理を体験することができず、少し残念にも思いました。ファミリーとの会話では、ホストファミリーは私が聞き取れないと分かりやすい英語に変えたり、繰り返し言ったりしてくれました。そのおかげで、お互いの意志が伝わらずに困ったということはほとんどありませんでした。また、ファミリーの親戚の方に「Your English is great!」と褒めていただきました。とても嬉しかったし、自信がついたので、その後の会話がとても楽しいものになりました。

姉妹校訪問を通して、アメリカの生活や習慣、価値観などを直接体験することができ、自分の視野を広げることができたと思います。誰にでもフレンドリーに話しかけたり、ハグや握手、ハイタッチなどを求めたりするアメリカの文化そのものが、人と人とがすぐに仲良くなれる道具ともいえるなと感心させられました。会話をしたり褒めていただいたりして自信がついたことも事実ですが、本当の英語力やコミュニケーション力を身に付けるには、今後も継続した努力が必要であるということも改めて感じました。





姉妹校訪問を通して

2023年11月5日(日)～11日(土)



真岡市立山前中学校 2年1組 山崎 麻央

私は5日間のアメリカでの生活で様々なことを経験しました。

アメリカでの生活の中で一番心に残っているのは姉妹校訪問です。ワシントンD.C.の観光が終わり、サドブルック・マグネット・ミドルスクールに着くと、早速、ホストファミリーとの対面式がありました。自分の名前が呼ばれた時、バディがどんな人なのかとドキドキしました。初日はネイティブの英語のスピードと学校では習わない会話表現に戸惑いはありましたが、次の日、学校に行く頃にはなんとなくの意味が分かるようになり、会話が楽しくなりました。学校で過ごす中で、驚いたことがありました。それは、バディのNaomiと関わりのある友達やそうでない人も移動教室時やスクールバスの中で目があったら「Hey!」と声をかけてくれたことです。また、授業を楽しんで受けている生徒が多く、手を挙げて発言する生徒が沢山いました。サド中は日本よりも積極的な人が多く、笑顔の多い学校でした。サド中の生徒の積極性を私達も見習わなければならないと思いました。他にも、学校名の入ったポロシャツやトレーナーだけの制服で、それ以外は個性を生かした私服で学校生活を送っていました。私服以外にも、『自由の国アメリカ』と言うように個性や自由を大切にする魅力的な文化を沢山見つけました。それと同時に、日本文化ならではの良さも感じました。



サド中での授業は日本語の授業以外は全て英語で話されるため、特に理科と英語の授業は知らない単語の量に驚き、理解するのに苦労しました。しかし、バディがノートを見せてくれたり、何をするのか詳しく教えてくれたため、楽しい授業になりました。授業以外にもカフェテリアで食事をしたり、バディのクラブの陸上に一緒に参加したりして絆を深められました。私に話しかけてくれる優しい人も何人もいて、友達になれて嬉しかったです。

家では、一緒に映画を見たり、バディの友達とビデオ通話をしたり、ホストマザーがショッピングモールに連れて行ってくれたりと思い出は数え切れないほどあります。

観光はテレビで見たことがあるような有名な場所を何箇所も回りました。その中でも一番心に残っているのは自由の女神の観光です。自由の女神のいるリバティ島まで船で行きました。ガイドさんの話で自由の女神ができるまでの歴史を詳しく知ることができました。実物は迫力があり、世界遺産になった理由が分かった気がしました。

私は今回、姉妹校訪問を通してたくさんの思い出ができました。遠く離れた場所に住んでいて文化も環境も違うホストファミリーやサド中の人たちと過ごし、繋がりがもてたことは奇跡だと思います。アメリカで出会った人たちは皆親切で良かったです。

またいつか、アメリカに行ってホストファミリーやバディに会いたいです。





姉妹校訪問のレポート

2023年11月5日(日)～11日(土)



真岡市立山前中学校 1年2組 加藤 俊仁

僕がアメリカに滞在した1週間は、とても素晴らしい時間となりました。

アメリカに行くのも初めてですが、飛行機に乗ったのも生まれて初めてでとてもわくわくしました。

アメリカ本土に着いて最初に行ったのは、ワシントンD.C.です。ワシントンD.C.では、リンカン記念堂やワシントン記念塔、ホワイトハウスなどを観光しました。特に印象に残ったリンカン記念堂は、白く立派な建物で、古代ギリシャの建物のような雰囲気がありました。また、ホワイトハウスは、屋上にスナイパーがいるとガイドさんから聞いて、とてもドキドキしながら見たり、写真を撮ったりしました。

あっという間に2日間が過ぎ、いよいよ姉妹校に行くときはさらにわくわくしました。サドブルック・マグネット・ミドルスクールは、外観がレンガ造りの立派な建物でした。正面玄関から校舎内に入ると、廊下が左右に伸び、教室はその両側にあり、終業のベルが鳴ると左右の扉からたくさんの生徒が出てきました。その後に、バディの子と初めて会いました。僕のバディは、リバイという子で僕と同じ年齢でしたが、身長はリバイのほうがはるかに高かったです。

ホームステイ初日は、リバイのおばさんの家で歓迎パーティを開いてくれました。そのパーティでは、主食はなしでチキンや野菜などが出ました。どの料理もとても美味しかったです。塩気が多かったです。その後は、リバイとテレビを見たり、日本からのお土産を渡したりしました。次の日は、リバイと学校に行きました。授業は85分で、少し長いと感じました。しかも、全部英語で話している上、山前中学校での授業とやっているところと内容が違ったので難しかったです。学校では、クラスメイトが積極的に話しかけてくれました。さらに、授業で分からないところを教えてくれました。学校の帰りは、スクールバスに乗りました。バス内では、みんなスマホを使ったり、雑談をしたりと自由でした。バス停で降りると、おばさんが迎えに来てくれて、そのままボルチモア市内へ行きました。この日は、リバイの弟のリス君もいました。ボルチモア市内ではベーブ・ルースの銅像がある球場に行きました。その球場は、とても広く綺麗でした。その日は、試合など何もやっていなかったけど野球観戦をしたらすごく楽しそうだなと思いました。その後は、インナーハーバーという港の近くにあるオブジェクトや小高い丘などにも行きました。オブジェクトは、日本ではなかなか見ない模様がありました。小高い丘から見るボルチモアの町並みは、とても綺麗でした。夕飯はカニ料理を食べました。ボルチモアはカニが有名なので食べられて良かったです。最後は、スーパーに行きました。スーパーは日本よりも広くコストコぐらいの広さがありました。帰宅したあとは、リバイとおばさんに折り鶴の作り方を教えてあげました。日本の文化を教えてあげたらとても喜んでいました。おばさんは上手に折れましたが、リバイは細かい作業が苦手だったらしく難しそうにしていました。しかし、折り終わるとにこにこ微笑んでありがとうと言ってくれました。次の日は、とうとうお別れになってしまいました。リバイやクラスメイトには良くしてもらったので、今日で終わりなのかと思うと寂しく感じました。ニューヨークへ出発するバスの窓からは、リバイが手を降ってくれているのが見えて、涙が出そうになりました。

ニューヨークはこれまでの町の風景と違って、すごく高い建物が立っていました。タイムズスクエアや自由の女神など、有名なスポットをたくさん訪れることができました。

僕はとてもいいホストファミリーと出会えたと思います。また、リバイとその家族に会いたいです。





アメリカにいた僕

2023年11月5日(日)～11日(土)



真岡市立山前中学校 1年1組 川村 龍聖

11月5日～11日、僕は山前中学校の姉妹校訪問団員としてアメリカに行った。今回訪問したのは、メリーランド州、ニューヨーク州、ワシントンD.C.だ。行きの飛行機では、まだホームステイの日じゃないのに「ホームステイ本当に大丈夫かな？英語伝わるかな？心配だなあ。」などの不安がずっと頭の中で渦巻いていた。

11月6日～8日は、姉妹校のサドブルック中の生徒と交流し、バディであるJaylenの家に泊まった。最初にバディとあったときは、「やばい、英語が伝わるか不安で何も言えない。」となってしまうと、なかなか話を切り出せなかった。それどころかバディーや、バディーのお父さんの話さえも緊張で聞き取れなかった。でも、その時に家族や引率の先生に言われた励ましの言葉を思い出して、車で思い切って話を切り出してみた。「Where is your home? near here?」「あなたの家はどこですか？この近くですか？」。すると、僕の英語が伝わったようでバディーとそのお父さんが「あと、15分くらいで着くよ」と答えてくれた。それから、なぜだか今までの緊張が一気にほぐれ、自分から話を切り出していくことができ、「物事はなんでも挑戦だ」という言葉の意味がわかった。そして、その日はお土産をホストファミリーに渡したり、バディーと一緒に遊んだりして過ごした。



サド中での普段の生活は山中とは全然違った。山中では、一回の授業は50分で、休み時間が10分ある。でもサド中では、一回の授業の時間が85分で、休み時間5分間だった。授業がいつもより長く、休み時間が短かったから、疲れた。いつもそんな生活を送っているサド中の生徒さんたちはすごいなあと思った。サド中のカフェテリアでは食べる席が自由で、バディーの横に座ることができた。日本ではインフルエンザやコロナウイルスの影響により長い間、自由に席を動かして友達と向かい合って給食を食べることができなかったため、アメリカは自由でいいなあと思った。

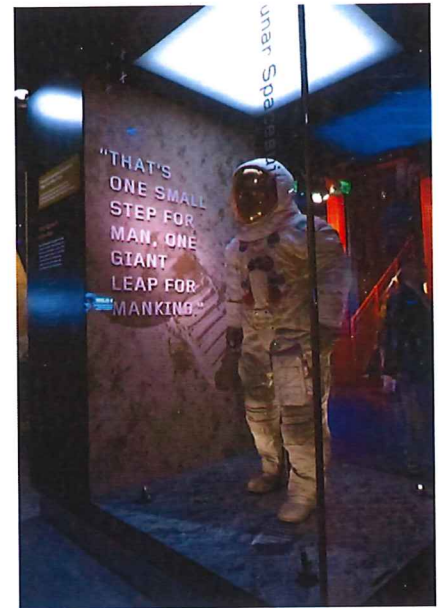
11月8日、バディーとお別れの日になってしまった。まだ一緒に居たいと思った。バディーとは来年まで会えないと思うととても寂しく感じた。また、会えるといいなあ。

11月8日～9日のニューヨーク観光では、タイムズスクエアに行き、夕食にはステーキを食べに行った。タイムズスクエアは、世界中の広告があって、にぎやかで東京のようだった。ステーキは、ジューシーで美味しかった。ニューヨークでの観光は、新鮮で楽しかった。



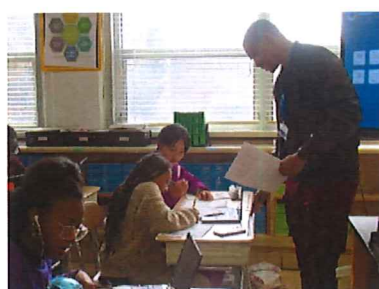
このアメリカでの出来事は、自分の人生で大きな出来事になる。また、アメリカに行くときは英語力をパワーアップさせて、もっといろいろな人と話したい。

Washington, D.C.





Sudbrook Magnet Middle School





New York





